

研究基盤エコシステム

～先端研究設備・機器の整備、人財、利活用、開発の好循環とは～

イベント参加
登録開始
2024年
12月1日

参加費
無料

研究基盤EXPO 2025

会 期

2025年1月23日(木)～2025年1月30日(木)

プログラム

- 1月23日(木) 9:45 オープニング
10:00-17:30 第4回研究基盤協議会シンポジウム
(主催 岡山大学 / 会場 岡山市, オンライン)
- 1月24日(金) 9:00-12:30 研究基盤協議会「共創の場」シンポジウム
(主催 研究基盤協議会 / 会場 岡山市, オンライン)
14:00-17:00 多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム
～研究とコアファシリティのマネジメント/人財の役割 (主催 日本学術会議若手アカデミー, 研究基盤協議会 / 会場 岡山市, オンライン)
- 1月27日(月) 10:00-12:00 研究データ基盤構築とそのエコシステム化を考えるシンポジウム
(主催 金沢大学 / 会場 金沢市, オンライン)
- 1月28日(火) 10:00-12:35 シンポジウム「地域ネットワークの連携・発展による研究基盤エコシステムの構築」
(主催 山口大学 / 会場 山口市, オンライン)
- 1月29日(水) 10:00-12:30 シンポジウム「私立大学の戦略的コアファシリティ2025」
～私立大学の共用研究基盤におけるヒトと資金の好循環を考える～ (主催 早稲田大学 / 会場 オンライン)
14:00-16:00 東京科学大学TCカレッジシンポジウム
(主催 東京科学大学 / 会場 東京都, オンライン)
- 1月30日(木) 9:30-12:30 令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム
(主催 文部科学省 / 会場 オンライン)
14:00-16:00 シンポジウム「ラボDXを推進するファシリティマネジメント」
(主催 JAIMA, 研究基盤協議会 / 会場 オンライン)
16:00 クロージング



主催 一般社団法人研究基盤協議会 (CORE)
協力 株式会社島津製作所、日本電子株式会社、株式会社日立ハイテク
後援 一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA)

【お問合せ】
研究基盤EXPO2025実行委員会
expo2025@jcore2023.jp

2025年

1月23日
(木)

9:45 オープニング

- 開会挨拶
- 来賓挨拶

江端 新吾 (一般社団法人研究基盤協議会 理事・会長)
井上 諭一 (文部科学省科学技術・学術政策局 局長)

会場：岡山大学

オンライン

10:00-17:30

第4回研究基盤協議会シンポジウム

会場：岡山大学

オンライン

第一部の研究基盤協議会報告に続き、第二部では研究基盤の要となる技術人財(技術職員等)にスポットを当て、育成方法や利活用を中心に好事例を紹介し、大学だけではなく、外部からの知見や情報を取り入れ、現在の課題について議論し、今後の技術人財の活躍の場を持続的に拡大していくことを発信します。(主催:岡山大学)

1月24日
(金)

9:00-12:30

研究基盤協議会「共創の場」シンポジウム

会場：岡山大学

オンライン

第1部 ヘリウム未来革命：資源循環で築くサステナブルジャパン

ヘリウムはNMR・MRI機器や超電導技術、産業用レーザーなどの先端技術に広く使用されている希少な物質です。産業や研究基盤を支えるヘリウムリサイクルは、環境保護と資源の有効利用の観点から重要な課題です。今回のTAMARIBA企画ではヘリウムリサイクルに取り組んでいる企業や大学技術職員をお招きし、ステークホルダーが連携してこの問題解決のスキームを構築するきっかけを議論します。(主催:研究基盤協議会)

第2部 現場を紡ぐ 若手ネットワークの挑戦

若手ネットワークではこれまで熊本・広島・東北の3大学に赴きました。研究基盤に関わる職員(技術・事務・URA)と意見交換を行い、現場の声から様々な課題を拾うことができました。その中でもコミュニケーション・相互理解の不足は多くの課題の根本にあり、研究支援体制構築における多職種間の協働を妨げていると考えています。各大学の様々な課題解決のきっかけとなりうる交流の場づくり等において、今後若手ネットワークがどのような役割を担うことができるかを議論します。(主催:研究基盤協議会)

14:00-17:00

多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム-研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割

会場：岡山大学

オンライン

近年、研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人財を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中で、研究開発活動全体をマネジメントするプロデューサー的人財やコアファシリティマネージャーの存在が求められていますが、このような人財の不足が大きな課題として注目されています。本シンポジウムでは、若手アカデミー、研究基盤協議会、文部科学省の各立場から、課題と解決策について意見交換と議論することを目的としています。(主催:日本学術会議若手アカデミー、研究基盤協議会)

1月27日
(月)

10:00-12:00

研究データ基盤構築とそのエコシステム化を考えるシンポジウム

会場：金沢大学

オンライン

大学の研究設備の共同利用は、研究基盤構築の重要な要素に位置付けられ、コアファシリティ構築支援プログラムでは、設備共同利用の活発化のために、大学経営の観点から議論や、そのためのURAや技術人材の活躍など、さまざまな視点からの議論が続けられています。最近話題となっている研究データ基盤構築についても、同様に大学経営の観点や設備共同利用のアウトプットの活用といった観点からの議論も重要になると考えられます。本シンポジウムでは、「研究データ基盤構築とそのエコシステム化」について敢えて研究基盤EXPOの中で考えることにより、そのオーバーラップする部分や今後のアウトカムへの期待を議論できればと考えています。(主催:金沢大学)

1月28日
(火)

10:00-12:35

シンポジウム「地域ネットワークの連携・発展による研究基盤エコシステムの構築」

会場：山口大学

オンライン

令和6年7月に科学技術・学術審議会研究開発基盤部会が公表した「先端研究設備・機器の共用推進にかかる論点整理」では、エコシステムの構築及び、現場課題の解決と全体を底上げする仕組みの構築の二つの目指すべき方向性が示されました。この論点整理の中から「ネットワーク」というキーワードに着目し、取組が進む大学を交え、工夫や課題を明らかにしながら地域ネットワークの連携・発展による研究基盤エコシステムの構築について議論を深めます。(主催:山口大学)

1月29日
(水)

10:00-12:30

シンポジウム「私立大学の戦略的コアファシリティ2025」

～私立大学の共用研究基盤におけるヒトと資金の好循環を考える～

オンライン

私立大学は、創設者の熱い思い「建学の精神」を具現化し、その個性豊かな教育研究によって社会変革を目指す機関です。ヒトを育て、その能力を社会に送り出す役割を持つ私立大学は、善くも悪くも自己責任で研究基盤を整備し、独自の考えで取組みを進めています。昨年の同シンポジウムでは、私立大学の研究基盤は、国公立大学にはない新しい視点も持ち合わせていることが明らかになりました。今回のシンポジウムでは、関西方面の私立大学からそれぞれの取組みを紹介してもらった上で、特にヒトと資金の好循環をどう考えるか、深掘りしてみたいと思います。(主催:早稲田大学)

14:00-16:00

東京科学大学TCカレッジシンポジウム

会場：東京科学大学

オンライン

令和2年度文部科学省委託事業「コアファシリティ構築支援プログラム」にて立ち上げた高度技術人財養成の場「TCカレッジ」もいよいよ4年目に突入し、本事業の最終年度を迎えました。TC取得者も6名を数え、その成果がさらに見える化しております。今年度は東京科学大学はもとより、サテライト校、参加校からもTC輩出の予定であり、本事業終了後を見据え、これからのTCおよびTCカレッジの展望について議論を行います。(主催:東京科学大学)

1月30日
(木)

9:30-12:30

令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

オンライン

産学官のすべての研究者に開かれた研究設備・機器群について、大学・研究機関全体で戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化するための活動(コアファシリティ構築支援プログラム)の集大成を報告するとともに、今後の方向性について議論します。(主催:文部科学省)

14:00-16:00

シンポジウム「ラボDXを推進するファシリティマネジメント」

オンライン

研究成果を生み出す場であるラボトリー。その場のデジタルトランスフォーメーションへの機運が高まってきている。ラボDXとは、人、もの、機器、データがつながり、データが新たなデータを創出することで、指数関数的に研究成果が創出される研究環境の変革である。その変革をもたらすファシリティマネジメントのあり方について議論する。(共催:JAIMA、研究基盤協議会)

16:00 クロージング

- EXP02025振り返り 岡 征子 (一般社団法人研究基盤協議会 理事・副会長)
- 講評 野田 浩絵 (文部科学省科学技術・学術政策局研究環境課 課長)
- 閉会挨拶 植草 茂樹 (一般社団法人研究基盤協議会 理事・副会長)

オンライン

主催

協力

後援

ver2024.11.29